

終わりまでお前の道を行きなさい

ダニエル 12 : 1 - 13



司祭 ヨハネ 井田 泉

2015 年 11 月 15 日  
聖霊降臨後第 25 主日

奈良基督教会にて

「主よ、これらのことの終わりはどうなるのでしょうか。」ダニエル 12:8

この先はどうなるのか。いったい最後はどうなるのか。そういう疑問や心配を感じるのが、わたしたちにもあるのではないのでしょうか。自分のこの先、自分の家族のこの先、教会の将来、またこの国の将来はどうなるのか。

今日はこのダニエル書の世界の中に入りたいと思います。旧約聖書というと紀元前 1000 年とか、紀元前 700 年といったはるかな昔にさかのぼることが多いのですが、今日の箇所はずっと近く、紀元前 200 年よりも手前です。

わたしたちの信仰の先祖である聖書の民、イスラエル民族は、長い歴史の中でたびたび苦難を経験してきました。エジプトでの奴隷生活、王国の分裂、大国アッシリアやバビロニアによる国の滅亡。外国への強制移住。しかしそれらにまさるとも劣らない悲劇が紀元前 2 世紀、イエスさまの誕生よりも 160 年ほど前に起こりました。

昔、世界史で習った記憶があるのですが、アレクサンダー（アレクサンドロス）大王が巨大な帝国を建設しました。彼の死後、帝国は分裂し、エジプトにはプトレマイオス王朝、またシリアを中心としてセレウコス王朝が成立しました。このセレウコス王朝のアンティオコス 4 世は自らを「エピファネス」と呼び、また人々に呼ばせました。「エピファネス」というのは「神

の顕現（現れ）」という意味です。われこそは神の現れであるとして彼は自分を神格化し、特にユダヤ人に対してすさまじい悪を行いました。

紀元前 168 年、エジプト遠征に失敗したアンティオコス 4 世はその怒りをエルサレムにぶちまけました。彼はエルサレムを破壊し、略奪し、多くのユダヤ人を殺し、あるいは奴隷にしました。

翌 167 年、アンティオコス 4 世はユダヤ人の信仰を踏みにじる宗教弾圧を行い、律法の書（聖書）を焼かせ、安息日などの律法を守ることを禁止しました。そしてついにエルサレム神殿にゼウスの像を建て、ユダヤ人に対してこれを礼拝することを強制したのです。抵抗した者の多くが殺されました。

先ほど読まれた中にこういう言葉がありました。

**「日ごとの供え物が廃止され、憎むべき荒廃をもたらすものが立てられてから、千二百九十日が定められている。」 12:11**

この「憎むべき荒廃をもたらすもの」とはゼウスの像のことです。

こうしたなかでダニエルは、3 週間にわたって嘆きの祈りをし、肉も酒も口にせず、身体が衰弱するのもかまわずに祈り続けました（10:2）。ある日、彼はチグリス川のほとりにいて、一人の人が麻の衣を着て純金の帯を腰に締めて立っているのを見ました。その姿の神々しさと恐ろしさにダニエルは意識を失って倒れてしまいました。すると、一つの手が彼に触れて、彼を引き

起こしました。こうして彼は非常な恐れの中で、主の言葉を聞かせられるのです。

彼が聞かされたのは、神にとって代わろうとする王の傲慢、彼の引き起こす戦争、そして最後の滅亡でした。そしてダニエルは、苦難に耐えて信仰を保った人々に与えられる祝福を聞かされます。それが今日の旧約聖書日課のダニエル書第 12 章の初めです。

「その時、大天使長ミカエルが立つ。  
彼はお前の民の子らを守護する。  
その時まで、苦難が続く  
国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。  
しかし、その時には救われるであろう  
お前の民、あの書に記された人々は。  
多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。  
ある者は永遠の生命に入り  
ある者は永久に続く恥と憎悪の的となる。  
目覚めた人々は大空の光のように輝き  
多くの者の救いとなった人々は  
とこしえに星と輝く。」 12:1-3

ここは旧約聖書の中でも著しい箇所です。  
「多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める」とあるように、復活がはっきりと語られているからです。

そして彼に語りかけた声はこう言いました。

「ダニエルよ、終わりの時が来るまで、お前はこれらのことを秘め、この書を封じておきなさい。多くの者が動揺するであろう。そして、知識は増す。」12:4

なおダニエルが見ていると、もう二人の天使が川の両岸に立っていました。その一人がああ最初の麻の衣を着ている人に対して問いかけました。

「これらの驚くべきことはいつまで続くのでしょうか」12:6

するとその人は誓ってこう言いました。

「一時期、二時期、そして半時期たって、聖なる民の力が全く打ち碎かれると、これらの事はすべて成就する。」12:7

「一時期、二時期、そして半時期」とは、1年、もう2年、さらに半年、合わせて3年半ということでしょうか。3年半続く迫害の果てに、神の民がすっかり打ち碎かれるという苦難の後に、救いが実現する、ということなのでしょう。

それを聞いてダニエルは理解できず、不安が募ります。

「こう聞いてもわたしには理解できなかったので、尋ねた。『主よ、これらのことの終わりはどうなるのでしょうか。』」12:8

わたしたちも不安があり、尋ねたくなります。格差、貧困、戦争体制、放射能汚染……この国の先はどうなるのか。またキリスト教会の将来はどうなるのか。

「主よ、これらのことの終わりはどうなるのでしょうか。」

けれどもそれに対する答はこうでした。

「ダニエルよ、もう行きなさい。終わりの時までこれらの事は

秘められ、封じられている。」12:9

具体的な答は示されませんでした。この先はどうなるのか、終わりはどうなるのかということにはわからない。けれどもあなたはもう行きなさい、自分の持ち場に帰りなさい、というのです。

「多くの者は清められ、白くされ、練られる。逆らう者はなお逆らう。逆らう者はだれも悟らないが、目覚めた人々は悟る。日ごとの供え物が廃止され、憎むべき荒廃をもたらすものが立てられてから、千二百九十日が定められている。待ち望んで千三百三十五日に至る者は、まことに幸いである。」12:10-12

千二百九十日、千三百三十五日。これはいずれも3年半を少しずつ足した数です。大迫害と苦難は3年半、いやもっと続くかもしれない。しかし必ず救いの時が来る。耐え忍び、希望を捨てずにその期間を歩み抜く者はさいわいである、と言われます。

「(ダニエルよ、) 終わりまでお前の道を行き、憩いに入りなさい。」12:13

先はどうなるのか、終わりはどうなるのかと心配せず、考えず、あなたは終わりまで自分の道を行きなさい。あなたが祈ってきた道、あなたが戦ってきた道。あなたの信仰と真実の道を、あなたに神が託しておられる信仰と働きの道を、終わりまで行きなさい。そうしてその果てにあなたに用意されている憩いに入りなさい。

あなたは地の塵の中に伏したとしても、必ず復活し、神の前に立ち、永遠の生命を受ける。

祈ります。

主よ、終わりまで行かせてください。あなたが用意して下さったわたしの道を行かせてください。先がわからない不安の中に立ちすくませないでください。何がどうであったとしても、信仰と真実の道を行かせてください。終わりの日に、主にまみえる喜びと永遠の憩いをお与えください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン